

「神のみこころを見分ける」

ローマ12：2

堀田修一 24・6・9

I みことばのつながり。

1. ローマ1章から11章＝父・子・聖霊の三位一体の溢れる恵み。
2. 12：1は、1章から11章神のあわれみ、恵みへの感謝の応答としての自分自身を献げる（献身）
礼拝。主の日の礼拝は、神が最も喜ばれる。
3. 「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心（思い、考え方）を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるかを見分けるようになります」12：2。神を心から礼拝する恵みの力は、私たちをこの世の罪と調子を合わせることから守る。むしろ、聖霊とみことばにより心、考え方を新しくされ、主の御姿、品性に変え続けていただけます。主の姿に成長し続けるキリスト者が最も願うのは、永遠の愛で愛してくださる神のみこころ、神が喜ばれることを見分け、御聖霊の力で喜んで従うことです。「わが神よ 私はあなたのみこころを行うことを喜びとします」詩篇40：8。

II 聖書に明確に記されている神のみこころ

1. 十戒。十戒にも先行的神の恵みが記されています→「わたしは、あなたがたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である」出20：2。戒めの前に神の救いの恵みがあります。新約時代の私たちも、罪と悪魔と死の奴隷状態から導き出され救われ（霊的な出エジプトの恵みを受け）、神との愛の交わりに入れています。
 - ① 「あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない」：3。神からの命、罪の赦し、永遠のいのちを神に感謝し、真の神のみを礼拝します。
 - ② 「あなたは自分のために偶像（像だけでなく、人や太陽や神が造られた被造物を崇拜する偶像）を造ってはならない」：4。偉大な神は、人の作る像に閉じ込められません。
 - ③ 「あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない」：7。聖書に明確に記されていないことを話し合い決めるときに、それぞれの意見が出されることが許される中で、「私は祈っていく中で、これが神のみこころと示されました」という言い方は、主の名をみだりに口にしている（自分の意見を主の名を使って正当化する）可能性があります。
 - ④ 「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ」：8。旧約時代は、土曜日の安息日、新約時代は、主が復活された日曜日、主の日を安息日として、神の溢れる恵みに感謝し自分をささげ神を心から礼拝し、礼拝後は身体の安息を取る。
 - ⑤ 「あなたの父と母を敬え」：12。神が与えられた父、母を敬い、父母が老いる時、支え方を祈りつつ識別力をいただいて愛を示す。支える側が無理をし過ぎ、共倒れしないように判断力を祈り求める。

- ⑥ 「殺してはならない」：13。神の愛を受け神が造られた隣人を殺してはならない。心で人を憎む殺人や言葉で人格を傷つける殺人もある。神の愛と赦しを自分がまず受け、愛し赦し合う者とされたい。他の国に侵攻する戦争（人殺し）は大きな罪。現在のイスラエルの戦争は聖戦ではない。侵略する国、自分や人を殺そうとする人への正当防衛（家族、国民の命を守る）の戦いは許される。
- ⑦ 「姦淫してはならない」：14。不倫や浮気をして伴侶を裏切ってはならない。神から愛をいただき、キリストの愛にとどまり、相手を真実、誠実な愛で愛する。
- ⑧ 「盗んではならない」：15。神が割り与えられた人のものを盗んではならない。詐欺も大きな罪。神が与えられたもので満足し感謝することを学び、歩みたい。
- ⑨ 「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない」：16。すべてを見、知っておられる神を覚え、偽り、嘘を言わないように祈りたい。真実を証言し、真実を語れるように祈りたい。
- ⑩ 「あなたの隣人の家を欲してはならない。あなたの隣人の妻、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを欲してはならない」：17。罪とは外側の行いだけでなく、根本的には、私たち人間の心にある貪欲、欲張り、他の人のものを欲しがる心。神が与えられたもので満足しない心。

2. 「いつも（神を、神の恵みを）喜んでいなさい。絶えず祈りなさい（神と絶えず交わりなさい）。すべてのことにおいて（試練の中でも主の恵みを数え）感謝しなさい」 I テサロニケ5：16－18。

3. 「私たちが御子イエス・キリストの名を信じ、キリストが命じられたとおりに互いに愛し合うこと、それが神の命令（みこころ）です」 I ヨハネ3：23

4. 聖書全体の教え、みことば。

Ⅲ 聖書に人生のすべてのみこころまでは記されていない＝進路、結婚の選択、独身の選択、住む場所、教会の選択、老後の過ごし方、介護の仕方等。人や家族の状況はそれぞれ＝「一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります」 I コリント7：7。私たちの日常の中で神のみこころを見分けるための助け＝「あなたがたの愛が、知識（神と自分と人への理解、知識）とあらゆる識別力（自分の分・人の分・協力し合う分・神の分を祈り求め判断する力）によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」ピリピ1：9－10。見分ける助け→

1. みことば：みことばで日々、養われていると困難への対処、みこころを見分ける判断力が与えられる。

2. 祈り：「みこころに導き、良い判断を与えて下さい」と真剣に正直に祈りましょう。神は、色々な方法で答えてくださいます。御声が直接肉声で聞こえるのではなく、神は、心に促し判断を与えられる。

3. 状況や経験：偶然はない。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10：29。みこころを祈り続ける中で、色々な出来事が起きる。その出来事の一つだけで判断しないで、一つ一つを結び合わせ、総合的に祈りつつ判断する。神が訓練と

して与えられる人生の苦しみも有益となる→「固い食物（深いみことば）は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです」ヘブル5：14。主が与えられる人生の訓練の経験は、無駄ではなく、判断の益となる。

4. 信頼できる人の助言：神は、みこころにかなう良き判断をするために、信頼できる助言者を用いられる。「多くの助言者によって救いを得る」箴言11：14。「多くの助言者によって勝利を得る」24：6。

支配的でない助言者を祈り求める。霊的な事：教職者。主にある友人。医療的な事：医師、看護師。法的な事：弁護士、司法書士。介護、老後の介助等：福祉従事者、ケアマネージャー。祈る時に神は不思議に相應しい助言者を与えて下さいます。

結び：三位一体の神の溢れる恵みに感謝して、自分自身を献げる礼拝をささげる時に大きな恵みを受け、神のみこころを行いたいという心、考え、思いが与えられ、みこころを見分ける力も与えられる。また、御聖霊の内住で心が新たにされ、自分が日々、聖霊とみことばにより主の姿、品性に変えられ続けるときに、神のみこころに従いたい心と何が神に喜ばれるかを見分ける考え、識別力が与えられます。まず主の恵みが先行し、その恵みへの応答として自分自身を神に献げ、喜んで礼拝する時に、神のみこころを見分け、みこころに生きる人生が生まれます！ ※聖歌296「主よささぐる わが身と霊（たま） 愛の御手に納めたまえ 幸にまが（禍、苦しみの時）に 我は祈らん 主よ みこころ 成したまえと」